

# 事務所移転のお知らせ



令和3年4月1日(木)より、エコけんの事務所は以下に引っ越します。

新住所：〒811-3121 福岡県古賀市筵内564-1 古賀市立古賀東中学校内

住所からお気づきかと思いますが、引っ越し先は古賀東中学校校舎の一室です。古賀市にとって校舎の一室を他組織に賃貸するのは初めてのことであり、地域に根ざすNPOの活動拠点の利用を取り上げてくださった結果です。(今回エコけんが借りるのは教室ではなく校舎内売店あつです。)古賀市の市民活動へのご理解ご協力に感謝します。

活動開始から22年、ずっと学校教育の外部支援者として活動を続けてきました。その学校という公的な地域資源の内部に拠点を置くわけですから、今後、相互の特性をさらに生かせるよう、学校とコミュニケーションをとりながら、エコけんらしい地道な活動に励みたいと思います。

※ご訪問の際は手順をお伝えしますので事前に連絡くださると助かります。古賀市内での転居なので電話番号は変更ありません。



## エコけんスタッフ近況報告

昨年、そして今年も残念ながら中止になった菜の花祭り。でも菜の花は咲いています。匂い立つ一面の黄色い絨毯、青空にたなびく鯉のぼり、花畑に憩う牛。のどかな春を満喫できます。

古賀市っていいね。大根川の土手にはもう土筆が「こんにちは」してるかも。花の季節到来に心はワクワク。そぞろ歩きましょうか。万歩計をつけたら励みになります。たまには散歩後にちょっとお茶したり、美味しいもの食べてみようかな。小さな楽しみみつけてひとりニコリ。



いろいろあるけど「生きてるだけで100点満点」日野原先生の言葉を思い出します。小さな幸せ数えたらいっぱいあることに気が付きました。

もし私がこの言葉を忘れて落ち込んでいたら誰か思い出させて下さいね。

(日女)

コロナ禍で高校1年生になった孫娘がいます。「ばーばのお弁当が食べたい」と催促され、週一のお弁当づくりを始めました。



メニューを考える楽しさ、前日に作り置きしたり、朝の手順を冷蔵庫に張り出して気合をいれます。

私がつけて届けることから、クラスメートから私のことを「う～婆」Uberと言われているらしい。

いつまでできるか、挑戦を目標にしています。

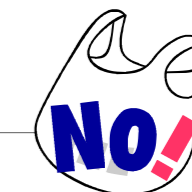
(きょうこちゃん)

# エコけんニュース No. 197 2021.3

古賀市天神 1-19-21  
Tel/FAX 092-944-6450  
ecoken@npo-ecoken.sakura.ne.jp  
http://www.npo-ecoken.sakura.ne.jp/

リレー記事 No.115

## 海辺のごみから



海洋プラスチック問題が取り上げられ、日本もレジ袋が有料化になり、ストローを紙製に変更するお店も出てきています。エコバッグで買い物する人も増えてきました。



▲きれいに見える花鶴ヶ浜海岸

一方、海岸を散歩すると、砂浜に流れついたごみは減っていません。日本海に面している福岡は外国からの漂流物も多いですが、日本のごみも多く見受けられます。海岸で捨てられたごみに加えて、河口付近は、川から流れてきたと思われるごみもたくさんです。町中で捨てられたごみが雨や風、特に暴風で飛ばされて海にたどり着いたごみです。一見、きれいに見える海岸をよくみると、波に洗われた、マイクロプラスチックになる寸前のごみがたくさんあります。

国連によると世界のプラスチックごみの9割がリサイクルされておらず、毎年800万トン以上が海へ流れでてるそうです。一方、日本のリサイクル率は非常に高いのですが、安心もできません。プラスチックリサイクル率84%(2017年)のうち56%はサーマルリサイクル(エネルギー回収)で、マテリアルリサイクル(再生利用)23%とケミカルリサイクル(原料・モノマー化、ガス化など)は4%程度です。サーマルリサイクルは環境への問題があり、マテリアルリサイクルの半分弱は海外へ輸出されていますが、輸入規制をする国が出てきて、行き場を失った廃プラスチックの保管量が増えたり、一部は国内で処理されています。

プラスチック製品の使用をゼロにすることはできませんが、私達にできることは、使い捨て製品の利用を減らし、使ったら適正に処理すること、さらに、消費者として容器包装を減らした製品を選ぶことだと思います。また、自分は捨てないからとか、外国のごみだからと野放しにはできないので、海岸などでごみ拾いをする人が増えるといいな、と思います。



▲ぼろぼろになったプラ容器

出典：国立環境研究所、一般社団法人プラスチック循環利用協会、日本貿易振興機構

《Ms. W》

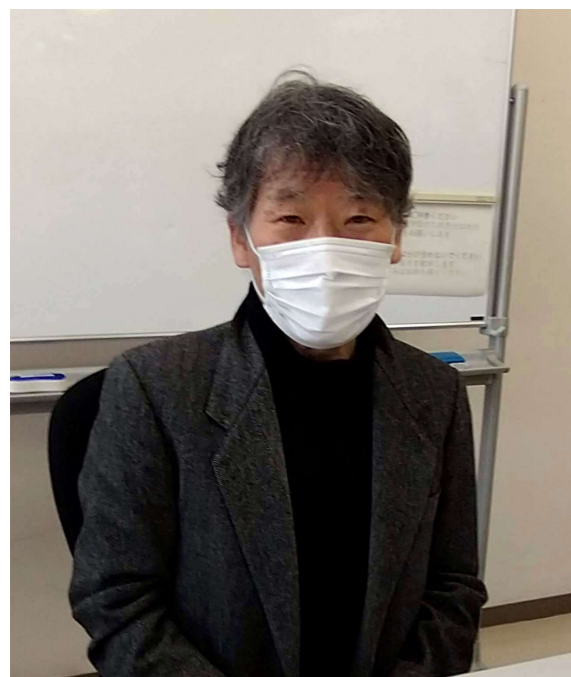
## 未来を創ろうインタビュー

No. 73 古賀市環境審議会会長

せつ  
薛 孝夫 氏

私が初めて薛先生を知ったのは、今から15年ほど前、エコけんのイベントの時でした。森林の生態や森づくりに詳しい九大の先生とのこと。当日は「しろくまくんをすくえ!すごろく」で子どもたちが遊ぶ時にそこで見てもらいました。『レッドカード』が多い子ども達に薛先生は「君のせいじゃない。すごろくでたままだから気にしないで。」とおっしゃっていたと、イベント終了後、すごろく担当スタッフが教えてくれました。子どものメンタルについて考えたことのない私はドキッとしたのを覚えています。

薛先生は「古賀市の環境といえば」お名前が真っ先に出る重鎮です。もちろん古賀市だけでなく多くの自治体で活躍され多忙なスケジュールの中、お話を伺えたのはラッキーでした。



▲シャイな薛先生のマスク姿

**Q.** 未来のために、今、何が重要だとお考えですか

**A.** 子ども達がおおらかで健全に育つような環境。しなやかに、些細なことに動じない、冷静な判断ができる子どもに育つ環境が大切。

**Q.** ご自身が暮らしの中で心がけていることがあれば聞かせてください。

**A.** 目立たないで人の役に立つ。  
若い人の役に立ち、伸ばせるよう振る舞う。

《未来を創る私の思い》

心の欲するところに従って  
のりこ  
矩を踰えず

「現代は親の世代とは明らかに違う社会を生きている。変化が急速だ。子ども達はまた違う社会を生きる。どんな子どもに育てばいいかわからない。どんなことにも対応できる力が必要になる。変わらないこともある。人を大事に思いやって自分が少しでも伸びることを喜びに感じるようになって欲しい。」そう、穏やかに話していただきました。

ほぼ子育てが終わってしまった私は、我が子を顧み、ひとり反省会をしました。

《ひらっち》

※「しろくまくんをすくえ!すごろく」▶

エコけん作成の地球温暖化と自分の行動の関りを知るためのすごろく。地球温暖化を進める行動を書いてあるマスに留まると『レッドカード』温暖化防止の行動を書いてあるマスに留まると『しろくまカード』をもらう。



## 未来を創ろうインタビュー

No. 74 古賀市在住

前田 瑞恵 氏

一昨年度より3年間、運営受託した古賀市市民活動支援センター（つながりひろば）では、登録団体の活動支援だけでなく、広く地域にボランティア活動が根付くよう様々な取り組みを進めています。そのなかのひとつに、不要なTシャツなどを汚れ拭きに切り分けたり、それを必要としている学校や福祉施設などに届けるというボランティアがあります。今回お話を伺ったのは、つながりひろばの広報紙（わ・わ・わ通信）でそのことを知り、定期的に布切りをしてくださっている前田瑞恵さんです。

前田さんは、もともとご自宅で不要のシャツを切って台所で使っておられたそうです。それが油をたっぷり吸ってくれることや、子どもの食べこぼし拭きに手軽であること、そうすることで市販のキッチンタオルを使わずに済むことなど、すでに良さを充分ご存じでした。ですからもしかしたら広報紙をご覧になって、「同じコトしてる人がいる〜。」って思われたのかもしれない。月に数度はつながりひろばに足を運んでくださっています。

**Q.** 未来のために、今、何が重要だとお考えですか

**A.** 人と人のつながり

**Q.** ご自身が暮らしの中で心がけていることがあれば聞かせてください。

**A.** ご近所に声をかける



《未来を創る私の思い》

いろいろな人と挨拶して友達の輪を広げよう。  
様々な考え方や知恵がもたらされ、  
自分の心が豊かになります。

お話を聞かせてもらい、コロナ禍という不測のできごとの渦中にいる私たちですが、なにごとにも糧にしたいという前田さんのパワーと優しさを分けてもらった気がします。人は人との関係性の中で生きています。できればそれを温かいものにしていきたいものですね。

《S》